

## — 独立 —

1839年に設立されたパテック フィリップは私企業であり、1932年以来、私の家族が所有している。

しかしこの独立は私にとって何を意味し、なぜ独立がそれほど重要なのだろうか。簡単に言えば、独立により、私たちは自らの運命を支配することができる。私たちの哲学、実践、規準、ビジョンはすべて、私たち自身の手中、すなわち時計製作が永遠の情熱である人々の手中にある。おそらく最も重要なことは、独立により、私たちが行うすべてのことにおいて、創造的な自由が保証されるということである。

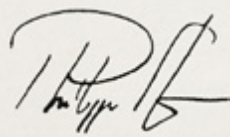
例えば、創業150周年を記念し、33の複雑機能という世界記録を持つタイムピースを創作するため、当社は、多くの最も才能ある人材を天文表示懐中時計キャリアー89の開発に投入した。このプロジェクトは完了までに9年を要した。

新しいミレニアムを記念し、私たちはスターキャリアー2000の開発にも8年を費やした。これは真の創意工夫によるタイムピースであり、6件の技術特許で保護され、21の複雑機能を搭載している。

さらに最近、1839年の創業から今日までのパテック フィリップ・コレクションを含む、500年の時計製作を網羅するユニークなミュージアム「時計製作の神殿」を開設することができたのも同じ理由からである。このようなミュージアムを開設し、時計とその人類への貢献についてより多くの人々に理解を深めていただくことは、私にとって常に夢であった。また当社の中核をなすスキル、クラフトマンシップ、技術革新を見学者に見ていただくことも私の願いであった。

独立した経営陣の下、当社の長期ビジョンは商業上の短期的需要よりも常に優先される。したがって当社の技術的リーダーシップを保持するために必要な投資が、外部株主の要求によって制限されることはない。

では当社の独立精神の主な受益者は誰であろうか。私たちにとって最も重要なのは、2つのグループの人々である。パテック フィリップの時計を製作する人々と、それらを所有する人々である。



独立性により、私たちは長期的な目標を追求することができる。

新しいシリーズでは、パテック フィリップの「10の価値」を取り上げ、同社の哲学、および卓越したタイムピースの製作においてこれらが果たす役割を考察する。  
第1回は、パテック フィリップが守り続ける独立の原則である。

✎ ニコラス・フォークス



独立  
—  
伝統  
—  
革新  
—  
品質と  
精緻な仕上がり  
—  
希少性  
—  
付加価値  
—  
美  
—  
サービス  
—  
思い入れ  
—  
継承

20年ほど前、パテック フィリップは「家族経営の時計メーカーにおける価値」(写真左)を出版した。この2004年刊行の薄い小冊子は、控え目なタイトルにもかかわらず重要な内容を秘めており、この意味から、著者であるフィリップ・スターンのイメージそのものといえよう。

1993年から2009年まで同社の社長を務めたスターン氏は、業界の他の誰とも異なる先見の明に恵まれたリーダーであることを立証した。この謙虚な出版物は、パテック フィリップを今日の卓越した高みに引き上げた彼の哲学に関する貴重な洞察を提供する。

スキーヤーであり、優勝歴に輝くヨットマンでもある行動力に溢れたフィリップ・スターンは、同時にきわめて洞察力に富んだ人であり、彼の成功は直感と知性によるものであった。パテック フィリップを経営する家族の3代目である彼は、同社にとって何が真実であり、何が真実ではないかを本能的に知っている。

「価値」は、直感という捉えどころのない特質を構成する各要素を概説している。各々の短い章は10の教訓のひとつひとつを分析しており、これらが組み合わされて「パテック フィリップ」という名の背後にある魔法を創り出している。この

小冊子は、知的かつ情緒的な短い自伝、「わが生涯に一片の悔いなし」との宣言として読むことができる。そして他の多くの知識人同様、スターン氏が最も重んじるのは「独立」である。

思想と行動の自由がなければ、今日のパテック フィリップはない。もしスターン氏がオーナーや株主に釈明する必要があったとしたら、とりわけキャリアー89の創作に関しては、彼の経営者としての決断は別のものになったであろう。

計の不滅の美しさに対する彼の深い信念の直接的な結果であり、その表れであった。「価値」の中で彼は、この懐中時計を独立した行動の完璧な例として挙げています。

今日、キャリアー89は時計史上のランドマーク、機械式時計製作における新しい黄金時代の幕開けとして広く認識されている。しかし1980年代初期、スターン氏のテクニカル・ディレクターであるマックス・ステューデルが、これまで製作された中で最も複雑な機械式携帯時計を創作するというアイデアを提案した時、そのような行動方針は多くの人にとって無謀に近いものに見えたとはいえない。

1970年代後半から1980年代前半にかけて

で、スイスの伝統的時計製作は、強いスイスフラン、高い金価格、東アジアにおける安い人件費の圧力を受けていた。ほぼ10年をかけて数個の大型で高価な懐中時計を実現させるようなプロジェクトに投資するよう、通常の経営者を説得することは不可能だったに違いない。しかしフィリップ・スターンは、そのような取り組みがもたらす潜在的可能性を自らに納得させるだけで十分だったのである。

伝統的な最高水準の時計製作の擁護者であり、美を愛するスターン氏は、1989年、自社の創業150周年を記念する最良の方法は、20世紀初頭の著名なコレクターたち、ジェームズ・ウォード・バックカードやヘンリー・グレイプス・ジュニアの時代以来見られなかったタイプの時計を製作することであると直観していた。パテック フィリップの独立は、画期的なタイムピースの誕生を可能にしたのである。

フィリップ・スターンは、「価値」の第1章(次ページ)の中でこの上なく適切に述べている。「独立により、私たちは自らの運命を支配することができ。私たちの哲学、実践、規準、ビジョンはすべて、私たち自身の手中、すなわち時計製作が永遠の情熱である人々の手中にある。」◆